

# 福満虚空蔵尊参道入口の石仏たち



平成26年12月、竜ノ口集落の人たちによって、整備された石仏群  
整備をするに当たり、調査した内容の報告である。

平成27年1月

# 福満虚空蔵尊参道入口石仏群報告

渡 辺 実

【1】調査月日 平成26年12月1日

【2】場所 石川町大字北山形字竜ノ口

【3】目的 竜ノ口集落で石仏群の整備をするため

【4】調査で明らかになったこと

(1) 年号が刻まれている石仏で一番古いものは文化9年(1812年)のものである。地藏菩薩と思われる。

年号の順にみると、文化9年(1812)、文政12年(1829)、嘉永年、元治2年(1865)、明治25年(1892)、明治32年(1899)であり、江戸時代後期から明治にかけて建立されたことが分かります。

(2) 建立されている石仏は如意輪観音像のある十九夜塔一基、二十三夜待の勢至菩薩立像が一基、文字塔の二十三夜塔一基、文字塔の馬頭観世音、台座に女性たちの造立によるもの二基、台座で男性11名の記銘のあるもの1基、台座に龍口と沢尻の講中銘のあるもの一基、台座で「見ざる・言わざる・聞かざる」の三猿彫刻が一基、記銘のない台座が数基あり、上部の石仏が紛失してしまっている。

(3) 月待講である二十三夜月待講がおこなわれて、明治25年に男性の講中で、二十三夜塔が建立されている。講としていつまで続いたかは不明である。しかし、添田正美氏の話では、昭和50年頃までは祖母イチが「今日は三夜様」と言って、牡丹餅を備えていたという。講の風習が最近まで続けられていたことになる。

尚、参道中腹にも文字塔の二十三夜塔が1基、虚空蔵尊境内に文字塔3基建立されている。天保や文久の年号があるので、この地域では江戸時代後期から二十三夜講が盛んに行われていたと思われる。

一方、女性たちも同じ月待講である十九夜講が行われていました。この月待講は現在も続けられています。現在参拝されている十九夜塔の如意輪観音像は明治32年に建立されたものです。

いつから始められたかは不明ですが、元治2年(1865)建立の台座のみのものにはおふさ外6名が造立者として刻まれているので、これも十九夜塔の一部と考えれば、この集落での十九夜講が江戸時代後期からおこなわれていました。

虚空蔵尊境内には文化4年(1807)と文化9年(1812)の如意観音坐像の二十三夜塔が建立されているので、この地方では江戸時代後期には十九夜講が行われていたと思われる。

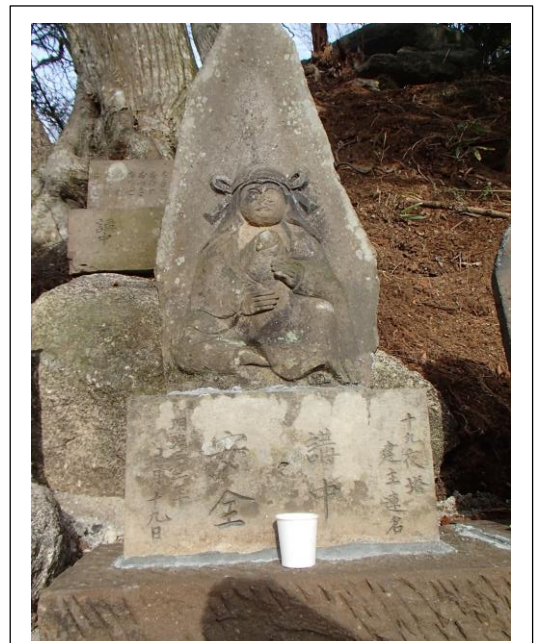
(4) この場所は龍口寺、虚空蔵尊の参道入口で、多くの人に供養してもらいたい思いから建立されたものと思われる。

(4) 北山形地域での十九夜講は、現在も続けられている、沢尻・竜の口、細田、大平、赤房・中ノ内の4集落ごとに、春と秋の2回行われている。

【5】十九夜塔

十九夜講や二十三夜講の月待講は、特定の月齢の夜の集まり、月待の行事を行った講中で、供養のしるしに塔を造立した。いわゆる供養塔である。

十九夜講はほとんどが女人講であり、大字か小字単位に行われている。江戸時代に入ってから行われたようであり、十九日の夜当番家やお寺に集まり、勤行が行われている。勤行には般若心経や御詠歌、和讃、真言などがあげられる。十九夜講の主尊は如意観音菩薩が多く、安産を祈り、育児や病気の祈願などが行われている。





福島県では各地に点在しているがあまり多くないという。

(1) 明治32年建立十九夜塔

明治32年〈1899〉2月19日建立で、次のように記銘がある。

「十九夜塔 連主連名 講中 安全 明治三十二年二月十九日」

造立者名右側

「添田エン、〃ケン、〃リキ、〃タツ、〃シノ、〃□テ、〃ハツ、〃クマ、〃セイ、〃ミツ、〃ヨシ、  
〃□ネ、〃ナツ

造立者左側

「添田ヤス、〃サト、〃テフ、〃キヨ、〃イワ、〃アサ、  
〃シケ、〃マツ、〃アキ、〃タケ、〃キミ」

計24名である。

(2) 円形台座のみのもの

「元治2年(1865)3月大吉日」

造立者名

「おふさ、およね、おなつ、おさき、おりか、  
お□も、おいし」 7名

(3) 四角の台座のみ

建立年はなし。

造立者名

「おみの、おしけ、おなつ、おはる、おはつ、おきち  
おみの、おつき、おりせ、おりの、おたけ、おみき」  
12名



【6】二十三夜塔

月は仏教において、勢至菩薩の化現であると説く經典の説があり、また三十日仏説では勢至の有縁日が23日とされていることから、月に対する礼拝は23日に行うのが本筋であるとする考え方から、23夜の月待は室町時代から仏家で行われていたという。

23日の夜に講中が集まり、勤行・飲食を共にし、月の出行事を二十三夜待という。月待は十六夜、十八夜、十九夜、二十二夜などあるが、二十三夜はその中核をなし、古くから行われている。

男だけでつくる講もあるが、女性のみの講も多いという。

この地区の場合は男の講であったと思われる。

二十三夜待の本尊は勢至菩薩と言われ、精進すること、同衾を忌むことなどが行われた。二十三夜塔は全国各地に存在している。供養塔である。

(1) 文政12年勢至菩薩立像塔

文政12年〈1829〉10月に添田弥右衛門によって建立されたものである。台座のみで、男11名の中にも弥右衛門名前が出てきます。

記銘

「文政12年10月日」「添田弥右衛門」と勢至菩薩立像が彫刻されている。

(2) 明治25年二十三夜文字塔

明治25年〈1892〉12月に、男9名によって建立されている二十三夜文字塔である。

記銘



## 「二十三夜塔」

### 造立者名

「添田捨五良、同□吉、同滝蔵、同萬次良、同倚蔵、同清美、同金次郎、同□蔵、同吉太良」

14名である。

この台座の下の自然石にも氏名が刻まれている。この二十三夜塔との関連は不明である。

### 造立者は

「添田兼吉、同勝右衛門、同源治、同千代蔵、同万吉、同久太」6名である。

## 【7】地蔵菩薩（カ）

文化9年〈1812〉建立された地蔵菩薩（カ）である。火防・盗難除・病氣平癒など庶民の願いをかなえてくれる仏として祈願された。江戸時代になると念仏供養、庚申供養などいろいろの供養の主尊、子どもの墓碑として多く建てられた。造立者などは台座が不明なので、分らない。

記銘「□（文）化九申年」

## 【8】台座のみ石仏

（1）建立年はなく、造立者名のための長方形の台座である。

### 造立者

「龍口 沢尻 講中」

上部の石仏はなく、不明である。

（2）建立年はなく、造

立者男11名が記されている。長方形の台座である。

「□（鈴カ）木熊右衛門、□（添）田源重、同長吉、同倉吉同豊蔵、同善吉、同弥右衛門、同直吉、同清蔵、同源左衛門渡邊半重」文政12年勢至菩薩立像を添田弥右衛門建立しているので同時代のものと考えられる。

## 【9】嘉永年馬頭観世音

馬頭観音は牛馬、特に馬の供養と結びついたものである。馬の供養や無病息災の祈願をこめて建てている。特定の死んだ馬の供養目的で建てられたこともあるという。又、造立者が講中の場合や個人の場合がある。

北山形全地域に存在しているので、牛馬は生活のため、特に農作業のためには大事なものであり、大事な家畜であったことが分かる。

ここに建てられている馬頭観世音は文字塔1基であり、嘉永年で、年のところが欠けていて不明、造立者名は記されていない。

### 記銘

「嘉永□八月吉日」「馬頭観世音」

## 【10】「見ざる、言わざる、聞かざる」の3猿の台座

3猿の彫り物のある台座である。上部にどのような塔がのっていたのかは不明である。

